

ボルトオンターボキット 取付説明書



取付けは必ず専門業者に依頼してください。
取扱説明書を先に読んでから作業を行なってください。

本書はご使用前に必ずお読みください。

本書は、お読みになった後も本製品の側に置いて活用してください。

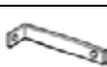
本製品は、下記に示す車両のみ取付け可能です。
万が一お車と本製品の型式等が異なる場合には、速やかにご購入の販売店にご連絡ください。

商 品 名	車種別ボルトオンターボキット
用 途	自動車専用部品
コ ー ド No.	11001-AH004 / 11001-AH005
取付説明書品番	E04211-H51017-00 Ver. 3-3.08
整備要領書品番	60SFE00A / 60SFE00B / 60SFE10 / 60SFE21
メーカー車種	ホンダ オデッセイ UA-RB1 / DBA-RB1 / LA-RB1 / ABA-RB1
エンジン型式	K24A
年 式	2003年10月～2008年9月
備 考	<p>【注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none">・プラグをHKSスーパーファイヤーレーシングプラグに交換してください。(コードNo.50003-M35I推奨)熱価は車両に合わせてください。・ハイオクガソリンを使用してください。・本製品はノーマルエンジン及びノーマルECU用です。ECUのロムやエンジンの圧縮比、カムを変更している場合は、ノッキングが発生しエンジンを破損する恐れがあります。・車両により燃料のセッティングが必要となる場合があります。・11004-AH004は、DBA-RB1の場合、CVT車のみ取付け可能です。5AT標準車は取付け未確認です。 <p>【別途必要部品】</p> <ul style="list-style-type: none">・HKS製エンジンオイル(粘度10W-55相当、必要量3.5リットル)・HKSスーパーファイヤーレーシングプラグ(コードNo.50003-M35I推奨) <p>熱価は車両に合わせてください。</p>

改訂の記録

改訂No.	日 付	記 載 変 更 内 容
3-3.01	2007/12	初版
3-3.02	2008/03	パーツリスト変更、記載事項変更
3-3.03	2008/05	記載事項変更
3-3.04	2008/07	パーツリスト変更
3-3.05	2008/09	適合車種拡大
3-3.06	2009/08	パーツリスト変更
3-3.07	2011/02	パーツリスト変更、記載事項変更
3-3.08	2012/09	パーツリスト変更、記載事項変更

パーツリスト

連番	品名	数量	形状	備考
1	ターボチャージャAssy	1		
2	エキゾーストマニホールド	1		
3	エクステンション	1		
4	サクションパイプ	1		
5	チャンバパイプNo.1	1		
6	チャンバパイプNo.2	1		
7	チャンバパイプNo.3	1		
8	ターボガスケット	1		
9	エクステンションガスケット	1		
10	チーズ	1		
11	コネクタ	1		
12	ニップルヘキサゴン	1		
13	オイルインレットホース	1		L=1050
14	オイルアウトレットパイプ	1		
15	オイルアウトレットガスケット	1		
16	銅ワッシャφ12	1		
17	エアクリーナステーA	1		AT車用
18	エアクリーナステーB	1		CVT車用
19	パワーフロー汎用ステー	1		
20	ヒートインシュレータ	1		
21	ヒートプレート	1		
22	遮熱テープ	1		

パーツリスト

連番	品名	数量	形状	備考
23	水冷パイプ	2		
24	ホースバンド#36	2		
25	ホースバンド#28	6		
26	ホースバンド#10	4		
27	ホースバンド#48	4		
28	ホースクランプφ8	4		
29	ホースクランプφ12	2		
30	タイラップ(中)	10		
31	シリコンホースφ50 L=55	1		
32	シリコンホースφ50 L=70	2		
33	シリコンホースφ60 L=70	1		
34	シリコンホースφ70 L=55	2		
35	ニップルオイルライン	1		
36	耐油ホースφ16	1		L=650
37	耐油ホースφ12	1		L=650
38	耐水ホースφ8	1		L=2000
39	オイルリターンパイプ	1		
40	オイルラインフィルタ	1		
41	バンジョウボルト	3		
42	銅ワッシャφ14	4		
43	銅ワッシャφ14 t=2.0	2		
44	スポンジシート	1		

パーツリスト

連番	品名	数量	形状	備考
45	スーパーパワーフローリローデッド	1		φ200-70
46	ガスナイトボルトM8 L=65	2		
47	ボルトM6 L=20	1		
48	ボルトM8 L=20	2		
49	ボルトM10 L=30	1		
50	スタッドボルトM8 7-10-14	7		
51	ハイオクシール	1		
52	セルフロックナットM8	7		
53	スプリングワッシャM6用	1		
54	スプリングワッシャM8用	2		
55	プレーンワッシャM6用 大径	2		
56	プレーンワッシャM6用	2		
57	プレーンワッシャM8用	4		
58	プレーンワッシャM10用	1		
59	ナットM6	1		
60	ガスケット触媒	1		
61	センサハーネス	1		
62	グロメット	1		
63	ボルトオンターボキット注意点	1		
64	取扱説明書	1		
65	取付説明書	1		
66	F-CON iS	1		

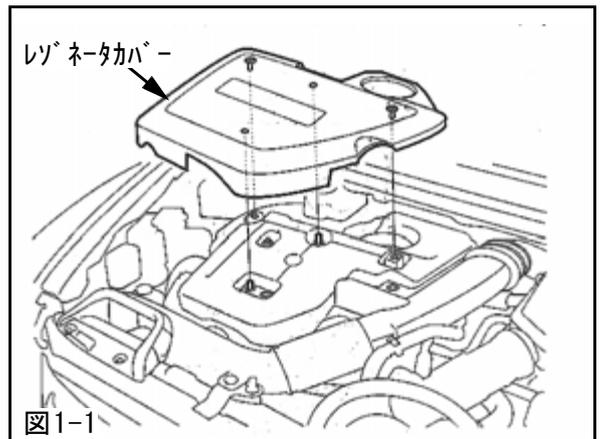
パーツリスト

連番	品名	数量	形状	備考
67	F-CONハーネス	1		

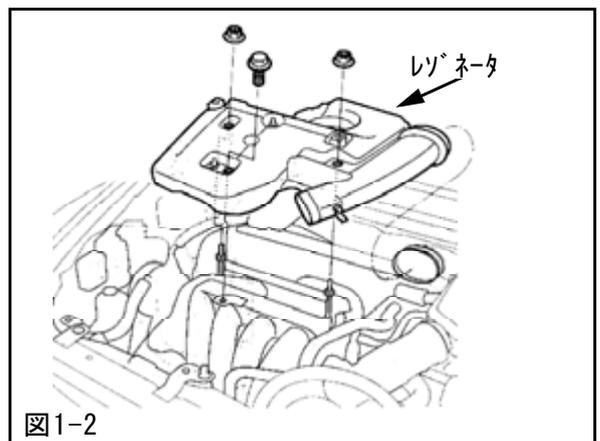
1. ノーマルパーツ取外し

作業を始める前に、エンジンオイル、冷却水を準備しバッテリーのマイナス端子を取外してください。
必ず整備要領書及び取扱説明書に準じて作業を行なってください。

- (1) エンジンオイルを抜取ってください。
- (2) レゾネータカバーを取外してください。(図1-1)



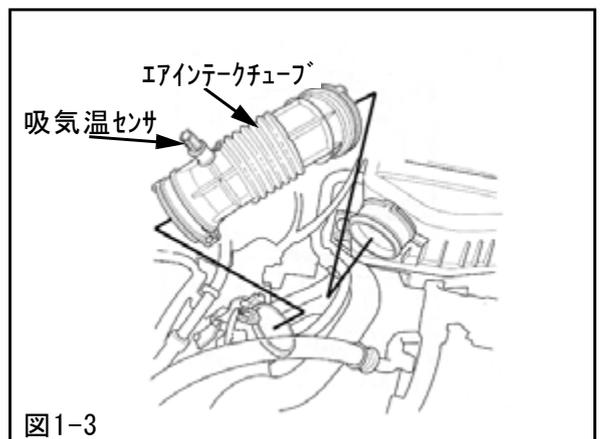
- (3) レゾネータを取外してください。(図1-2)



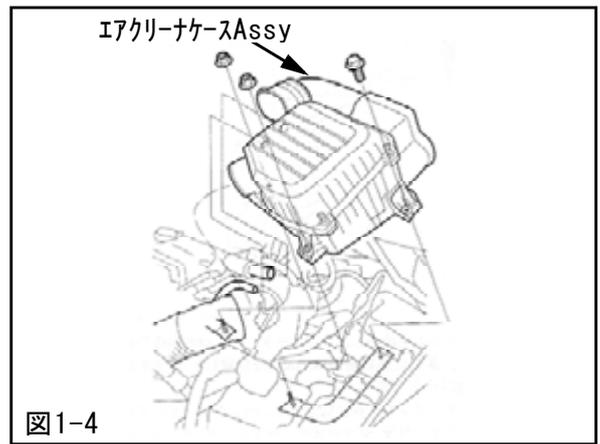
- (4) 吸気温センサをエアインテークチューブから抜き取り
エアインテークチューブを取外してください。
(図1-3)

アドバイス

- ・ 吸気温センサは再使用します。



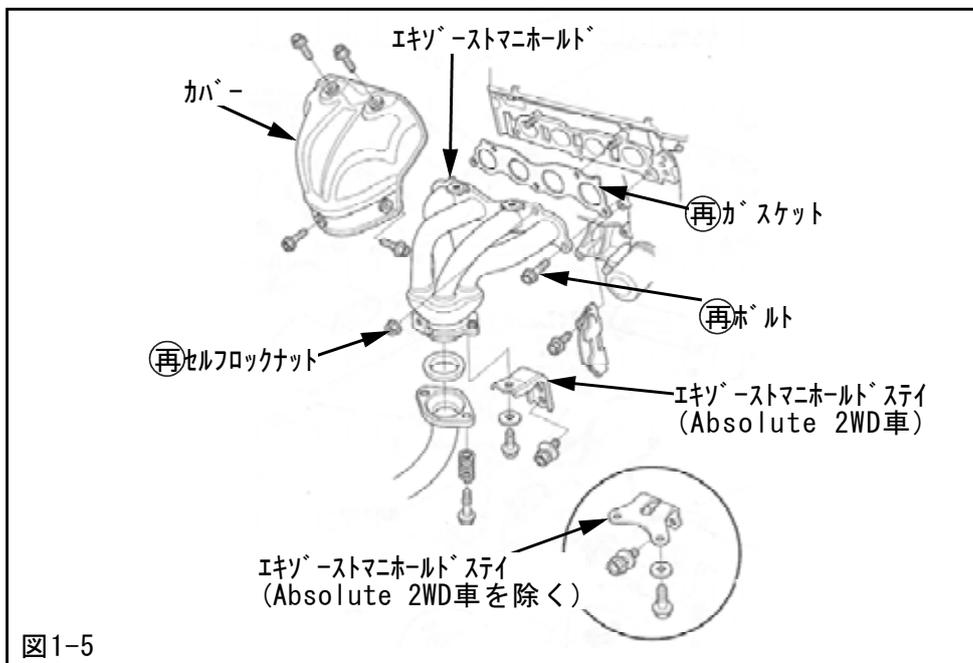
(5) エアクリーナケースAssyを取外してください。
(図1-4)



(6) カバー及びエキゾーストマニホールドステーを外し、エキゾーストマニホールドを取外してください。(図1-5)

アドバイス

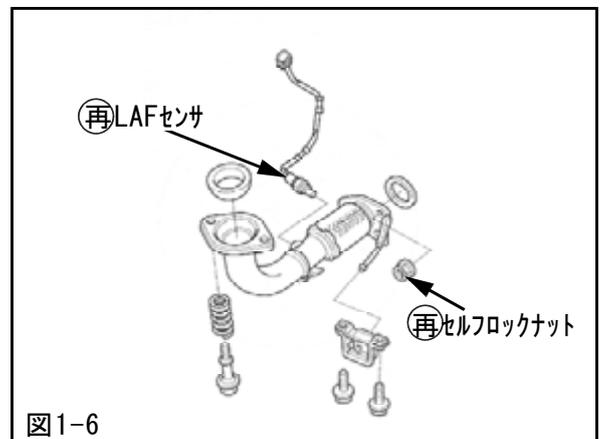
・ボルト(2本), セルフロックナット, ガasketは再使用します。



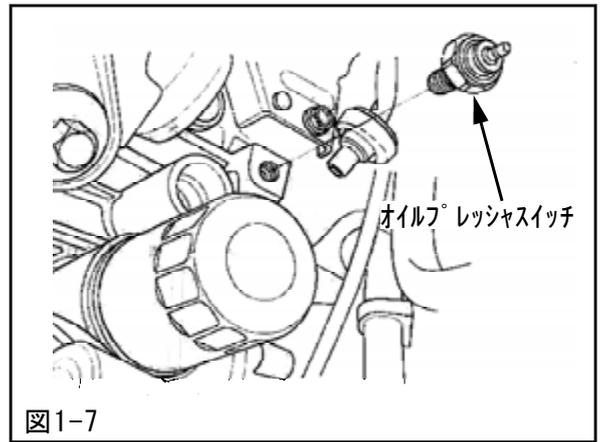
(7) エキゾーストパイプを取外してください。(図1-6)

アドバイス

・LAFセンサ, セルフロックナットは再使用します。



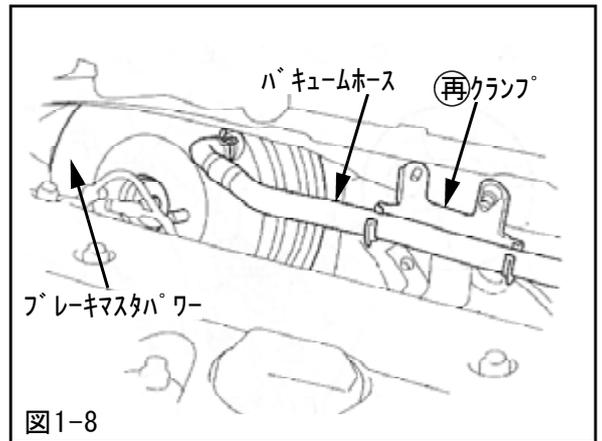
- (8) オイルプレッシャスイッチを取外してください。
(図1-7)



- (9) ブレーキマスターパワーへのバキュームホースのクランプを取外してください。(図1-8)

アドバイス

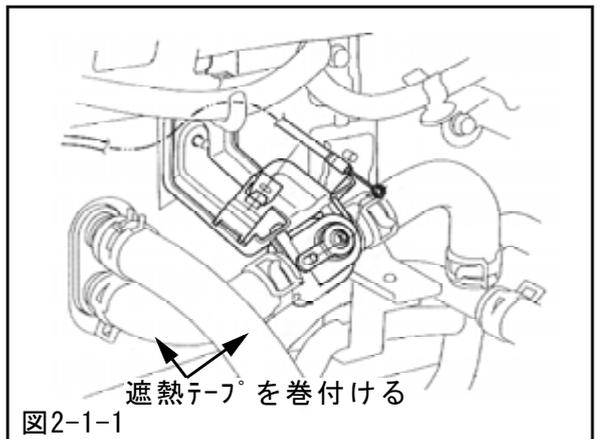
- ・クランプは再使用します。



2. キットパーツ取付け

2-1. 遮熱テープの取付け

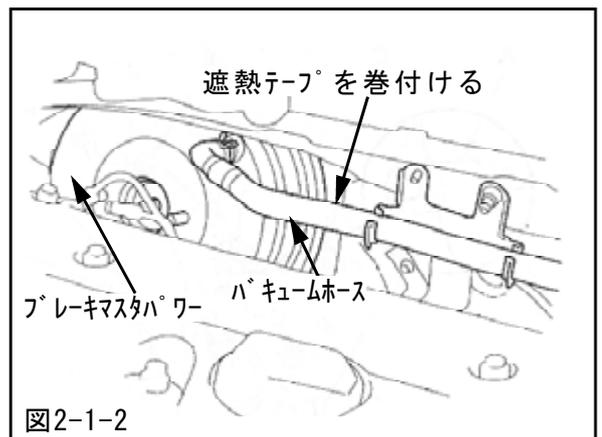
- (1) バルクヘッド付近のヒータホースに遮熱テープを巻付けてください。(図2-1-1)
・遮熱テープ (P22)



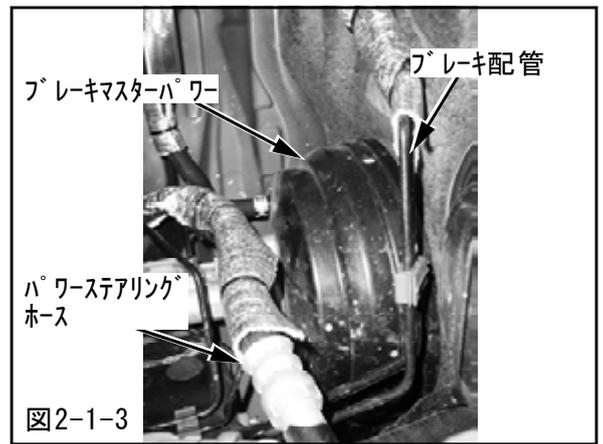
- (2) ブレーキマスターパワーへのバキュームホースに遮熱テープを巻付けてください。(図2-1-2)
・遮熱テープ (P22)

アドバイス

- ・クランプ部分は、ヒートインシュレータで遮熱するので遮熱テープを巻く必要はありません。



- (3) パワーステアリングホースに遮熱テープを巻付けてください。(図2-1-3)
- ・遮熱テープ (P22)
- (4) ブレーキ配管に遮熱テープを巻付けてください。
- ・遮熱テープ (P22) (図2-1-3)



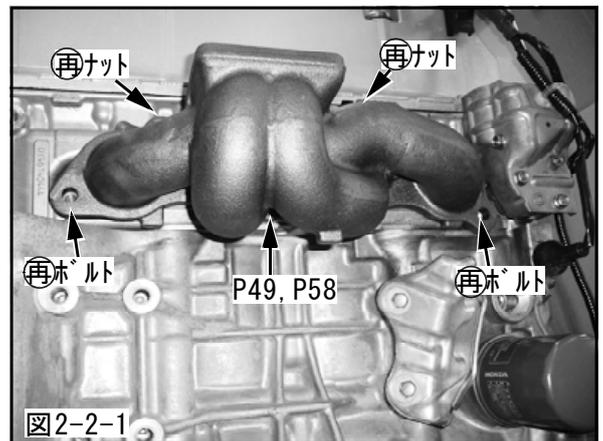
2-2. エキゾーストマニホールドの取付け

- (1) エキゾーストマニホールドにスタッドボルトM8 7-10-14を取付けてください。
- ・エキゾーストマニホールド (P2×1)
 - ・スタッドボルトM8 7-10-14 (P50×4)

アドバイス

- ・スタッドボルトM8 7-10-14のネジ部の短い方をエキゾーストマニホールド側に取付けてください。

- (2) エキゾーストマニホールドをエンジンへ取付けてください。その際、エキゾーストマニホールド下側中央部分は、キット内のボルトM10 L=30及びプレーンワッシャM10用を使用して取付けてください。(図2-2-1)
- ・エキゾーストマニホールド (P2)
 - (2-2. (1) でスタッドボルトM8 7-10-14を取付けたもの)
 - ・ボルトM10 L=30 (P49×1)
 - ・プレーンワッシャM10用 (P58×1)
 - ・ボルト (純正×2)
 - ・ナット (純正×2)
 - ・ガスケット (純正)

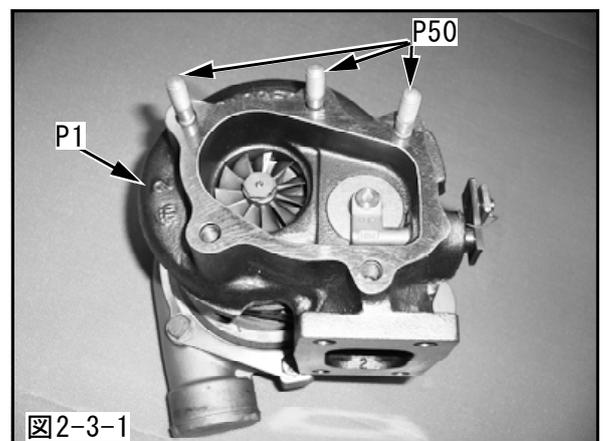


2-3. ターボチャージャAssyの取付け

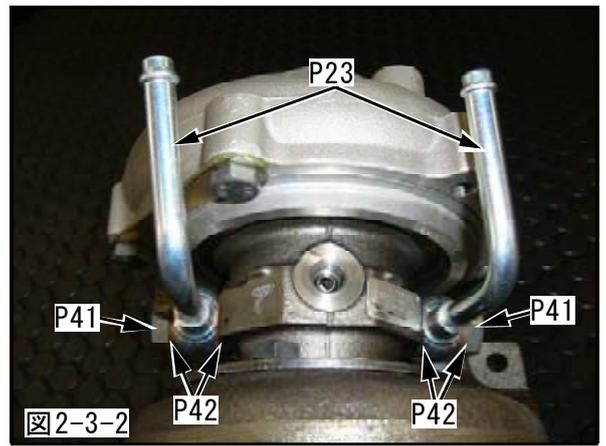
- (1) ターボチャージャAssyの図の3箇所の位置にスタッドボルトM8 7-10-14を取付けてください。(図2-3-1)
- ・ターボチャージャAssy (P1×1)
 - ・スタッドボルトM8 7-10-14 (P50×3)

アドバイス

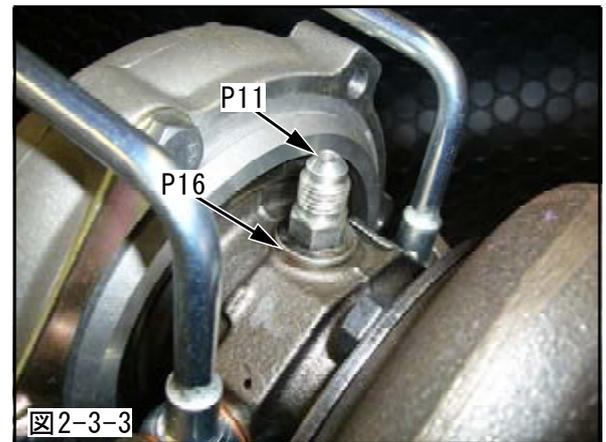
- ・スタッドボルトM8 7-10-14のネジ部の短い方をターボチャージャAssy側に取付けてください。



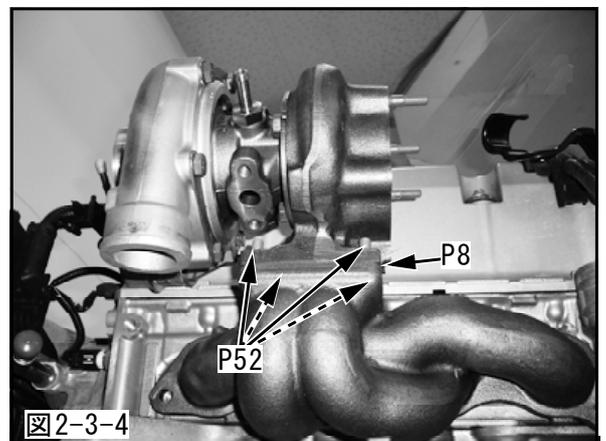
- (2) ターボチャージャAssyに水冷パイプを取付けてください。(図2-3-2)
- ・水冷パイプ (P23×2)
 - ・バンジョウボルト (P41×2)
 - ・銅ワッシャφ14 (P42×4)



- (3) コネクタをターボチャージャAssyに取付けてください。(図2-3-3)
- ・コネクタ (P11×1)
 - ・銅ワッシャφ12 (P16×1)



- (7) エキゾーストマニホールドにターボチャージャAssyを取付けてください。(図2-3-4)
- ・ターボチャージャAssy (P1)
(2-3. (1) でスタッドボルトM8 7-10-14を取付けたもの)
 - ・エキゾーストマニホールド (P2)
(2-2. (2) でエンジンへ取付けたもの)
 - ・ターボガスケット (P8×1)
 - ・セルフロックナットM8 (P52×4)



2-4. オイルインレットホースの取付け

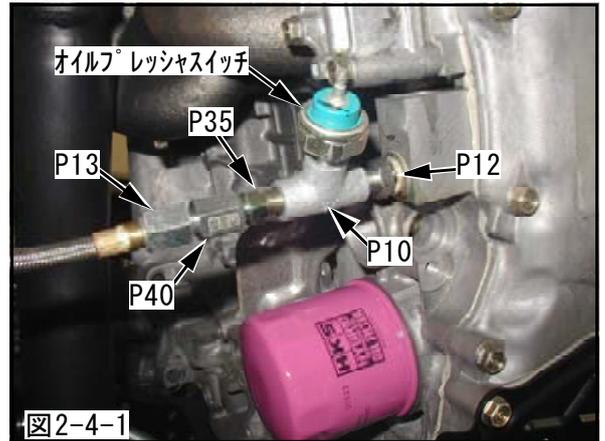
(1) エンジンブロックにニップルヘキサゴン、チーズ、純正オイルプレッシャスイッチ、ニップルオイルライン、オイルラインフィルタを取付けてください。

(図2-4-1)

- ・チーズ (P10×1)
- ・ニップルヘキサゴン (P12×1)
- ・オイルプレッシャスイッチ (純正)
- ・ニップルオイルライン (P35×1)
- ・オイルラインフィルタ (P40×1)

アドバイス

- ・オイルプレッシャスイッチが他の部品と干渉しないようにチーズの角度には注意をしてください。



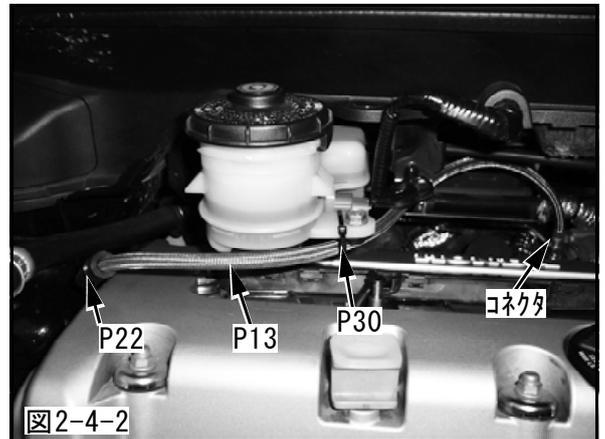
(2) オイルインレットホースをオイルラインフィルタに取り付けてください。(図2-4-1)

- ・オイルインレットホース (P13×1)

(3) オイルインレットホースをブレーキマスタシリンダの前方へ通し、ターボチャージャAssyのコネクタに取り付けてください。(図2-4-2)

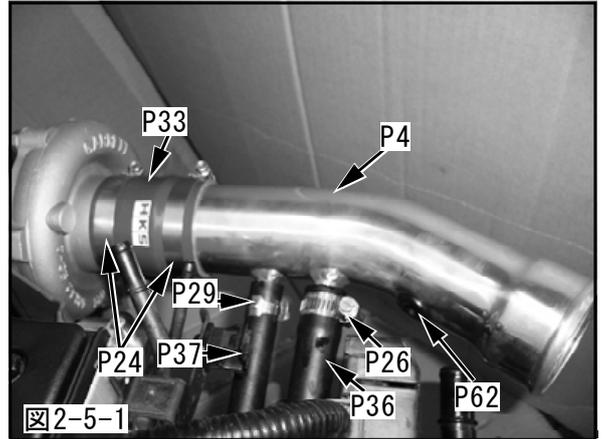
アドバイス

- ・オイルインレットホースと配線、その他各部が干渉する場合は、遮熱テープを巻付けタイラップ(中)で車両へ固定してください。
- ・遮熱テープ (P22)
- ・タイラップ(中) (P30)



2-5. サクションパイプの取付け

- (1) サクションパイプにグロメット、耐油ホースφ12、耐油ホースφ16を取付けてください。(図2-5-1)
 - ・サクションパイプ (P4×1)
 - ・ホースバンド#10 (P26×1)
 - ・ホースクランプφ12 (P29×1)
 - ・耐油ホースφ16 (P36×1)
 - ・耐油ホースφ12 (P37×1)
 - ・グロメット (P62×1)
- (2) サクションパイプをターボチャージャAssyに仮付けしてください。(図2-5-1)
 - ・シリコンホースφ60 L=70 (P33×1)
 - ・ホースバンド#36 (P24×2)
 - ・サクションパイプ (P4)(2-5. (1) でグロメットを取付けたもの)

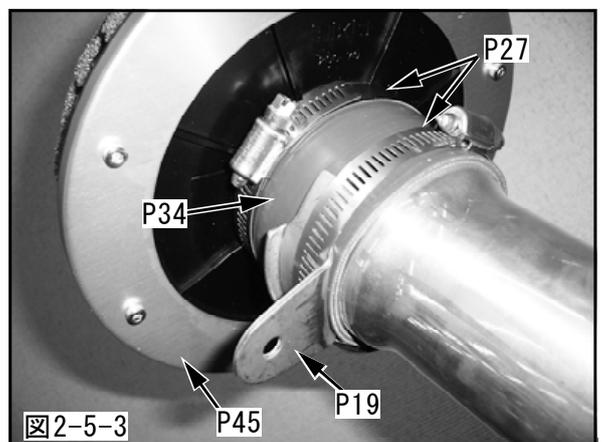
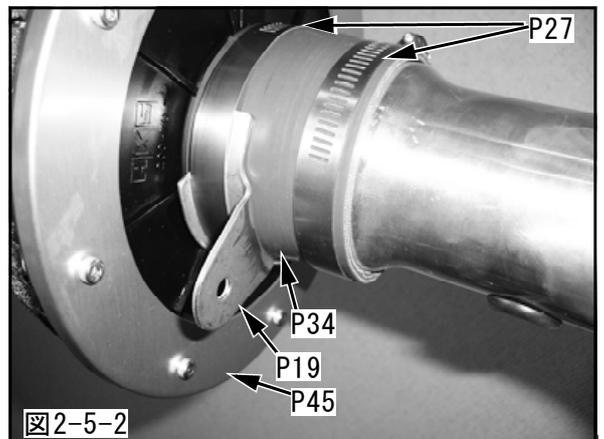


アドバイス

- ・耐油ホースφ12及び耐油ホースφ16が純正ホースと干渉しないように仮付けをしてください。
 - ・スーパーパワーフローリローデッド及びクリーナステアの取付後本締めをします。
- (3) サクションパイプにスーパーパワーフローリローデッドを仮付けしてください。
 - ・パワーフロー汎用ステア (P19×1)
 - ・ホースバンド#48 (P27×2)
 - ・シリコンホースφ70 L=55 (P34×1)
 - ・スーパーパワーフローリローデッド (P45×1)

アドバイス

- ・AT車の場合
パワーフロー汎用ステアは、パワーフロー側のホースバンドと共締めします。その際パワーフロー汎用ステアは図の向きになるように取付けてください。(図2-5-2)
- ・CVT車の場合
パワーフロー汎用ステアは、サクションパイプ側のホースバンドと共締めします。その際パワーフロー汎用ステアは図の向きになるように取付けてください。(図2-5-3)



- (4) ハーネスクランプステーを固定している純正のボルトを一旦取外し、エアクリーナステータを取付けてください。この際、純正のハーネスクランプステーの形状によってはエアクリーナステータの下側にプレーンワッシャM6用 大径を挟んで取付けてください。

(AT車の場合：図2-5-4, 図2-5-5)

(CVT車の場合：図2-5-6, 図2-5-7)

- ・エアクリーナステータA (P17×1) (AT車の場合)
- ・エアクリーナステータB (P18×1) (CVT車の場合)
- ・プレーンワッシャM6用 大径 (P55×2)
- ・ボルト (純正)

- (5) 2-5. (3) で取付けたパワーフロー汎用ステーを2-5. (4) で取付けたエアクリーナステータへ取付けてください。

(AT車の場合：図2-5-5)

(CVT車の場合：図2-5-7)

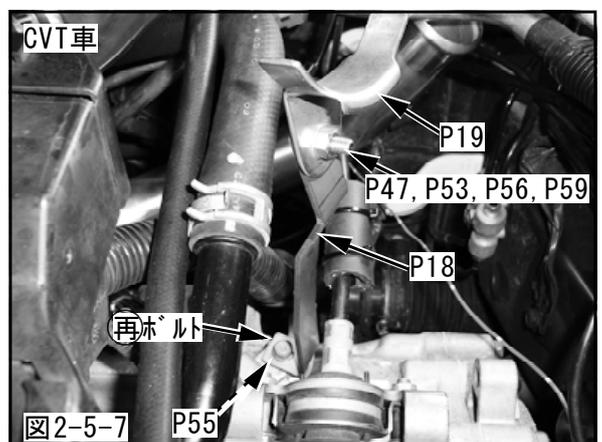
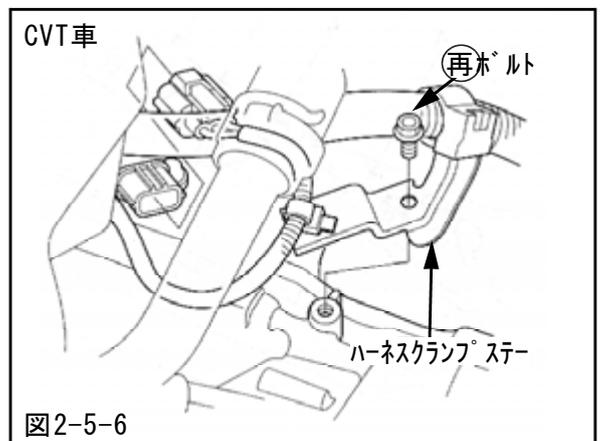
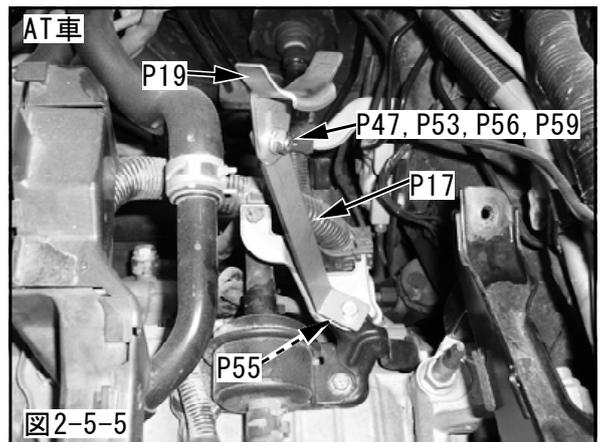
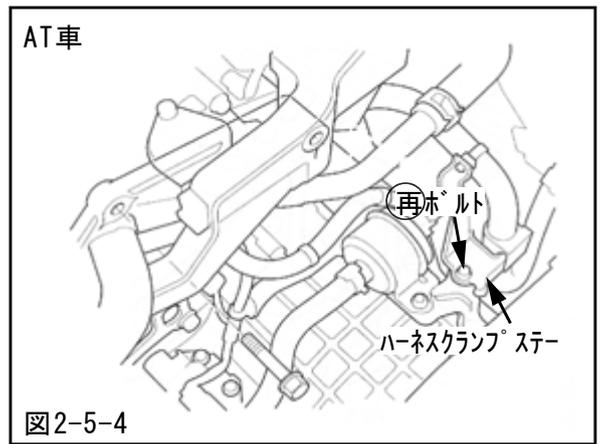
- ・ボルトM6 L=20 (P47×1)
- ・スプリングワッシャM6用 (P53×1)
- ・プレーンワッシャM6用 (P56×2)
- ・ナットM6 (P59×1)

- (6) サクションパイプ, エアクリーナステータ, パワーフロー汎用ステー, スーパーパワーフローリローデッドを仮組してください。

- (7) 2-5. (6) で仮組したものが、無理な力がかかったり干渉が無ければ本締めをしてください。純正部品との干渉がある場合は、スポンジシートを貼付けてください。

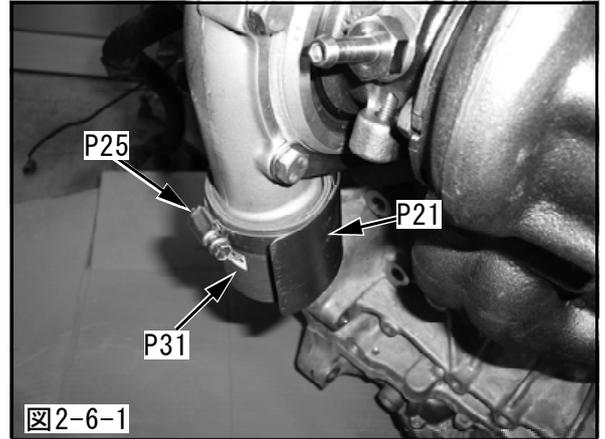
- ・スポンジシート (P44)

- (8) 次の作業を行なうため、スーパーパワーフローリローデッド本体のみ一旦取外してください。



2-6. チャンバパイプの取付け

- (1) ターボチャージャAssyにシリコンホースφ50 L=55, ヒートプレートを取付けてください。(図2-6-1)
- ・ヒートプレート (P21×1)
 - ・ホースバンド#28 (P25×1)
 - ・シリコンホースφ50 L=55 (P31×1)



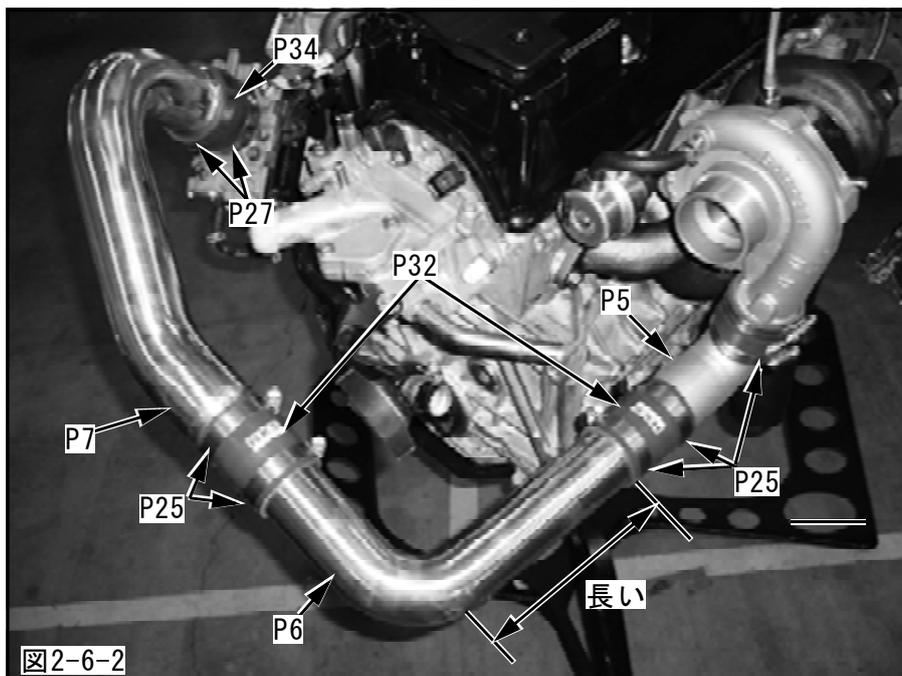
- (2) チャンバパイプNo.1, No.2, No.3を車両へ取付けターボチャージャAssy～スロットルバルブをつないでください。(図2-6-2)
- ・チャンバパイプNo.1 (P5×1)
 - ・チャンバパイプNo.2 (P6×1)
 - ・チャンバパイプNo.3 (P7×1)
 - ・ホースバンド#28 (P25×5)
 - ・ホースバンド#48 (P27×2)
 - ・シリコンホースφ50 L=70 (P32×2)
 - ・シリコンホースφ70 L=55 (P34×1)

アドバイス

- ・チャンバパイプNo.1, No.2, No.3を仮組みして、無理なく装着できるように調整しながら取付けてください。その際チャンバパイプNo.2のストレート部分の長い方がターボチャージャAssy側になるように取付けてください。

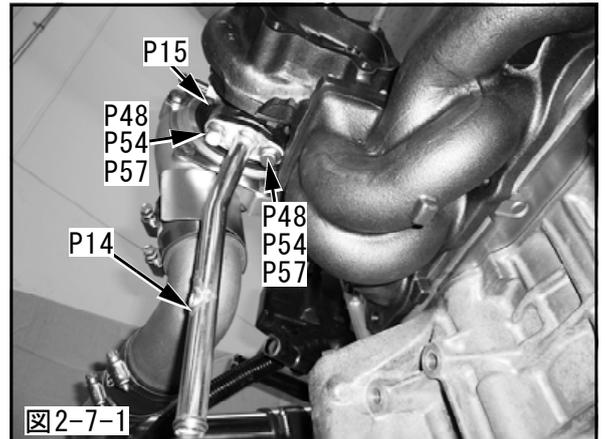
●CVT車の場合

- (3) ミッションのコントロールワイヤがチャンバパイプNo.2及びエアクリーナステーと干渉する場合は、干渉する部分にスポンジシートを貼付けてください。
- ・スポンジシート (P44)

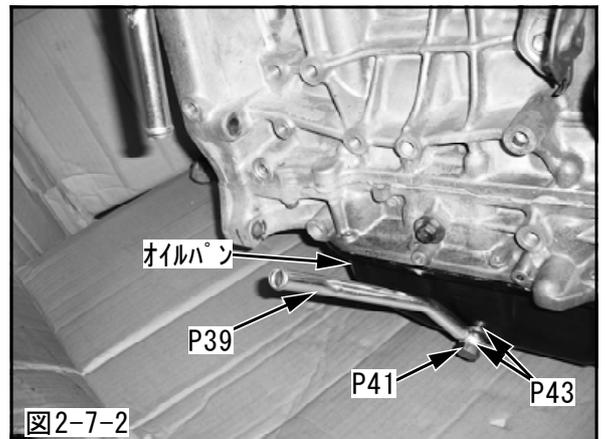


2-7. オイルアウトレットパイプ, オイルリターンパイプの取付け

- (1) オイルアウトレットパイプをターボチャージャAssyへ取付けてください。(図2-7-1)
- ・ オイルアウトレットパイプ (P14×1)
 - ・ オイルアウトレットガスケット (P15×1)
 - ・ ボルトM8 L=20 (P48×2)
 - ・ スプリングワッシャM8用 (P54×2)
 - ・ プレーンワッシャM8用 (P57×2)



- (2) オイルリターンパイプをオイルパンへ仮付けしてください。(図2-7-2)
- ・ オイルリターンパイプ (P39×1)
 - ・ バンジョウボルト (P41×1)
 - ・ 銅ワッシャφ14 t=2.0 (P43×2)

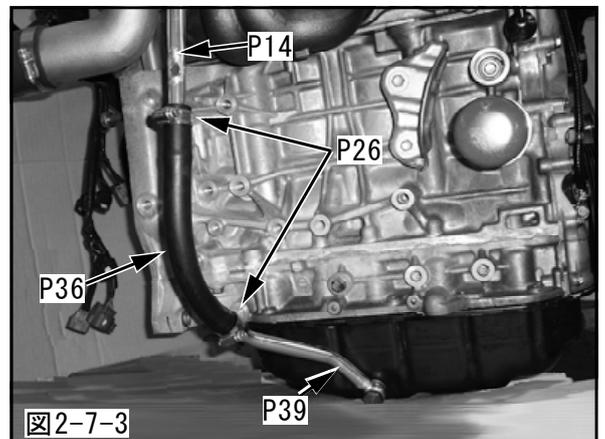


- (3) 2-5. (1)でサクションパイプに取付けた耐油ホースφ16のサクションパイプに取付けていない方を230mm切断してください。

アドバイス

- ・ 230mmに切断した耐油ホースφ16は次の作業で使用します。

- (4) オイルアウトレットパイプとオイルリターンパイプに2-7. (3)で230mmに切断した耐油ホースφ16を取付けてください。(図2-7-3)
- ・ ホースバンド#10 (P26×2)
 - ・ 耐油ホースφ16 (P36) (2-7. (3)で230mmに切断したもの)



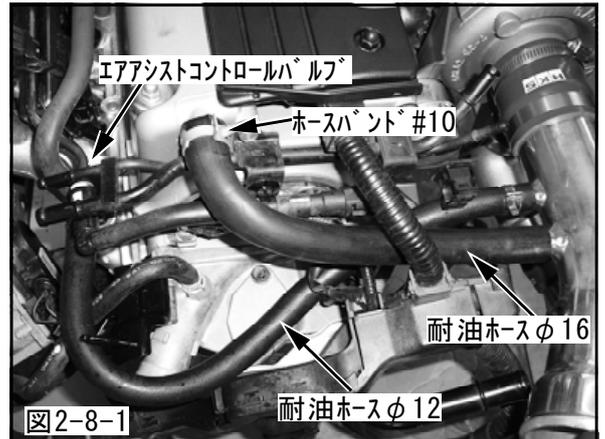
- (5) 2-7. (2)で仮付けしたオイルリターンパイプを本締めしてください。

2-8. 各ホースの取付け

- (1) 2-5. (1) でサクションパイプに取付けた耐油ホースφ16を適切な長さに切断し、ヘッドカバーのブローパイプへつないでください。(図2-8-1)
- ・ホースバンド#10 (P26×1)

⚠ 注意

- 耐油ホースφ16が途中でつぶれないようにしてください。
耐油ホースφ16がつぶれた状態で取付けをすると白煙の原因となります。



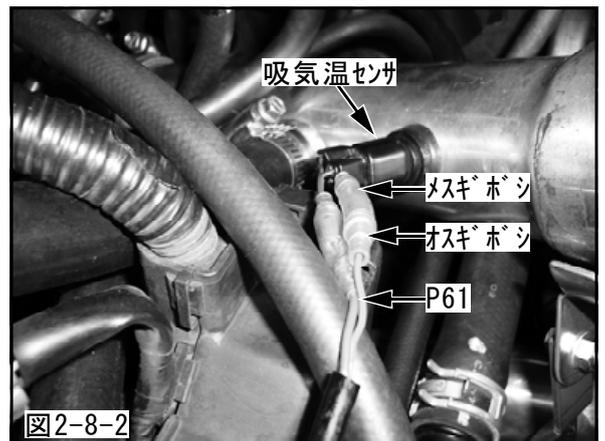
- (2) 2-5. (1) でサクションパイプに取付けた耐油ホースφ12を適切な長さに切断し、エアアシストコントロールバルブへつないでください。(図2-8-1)
- ・ホースクランプφ12 (P29×1)

- (3) 1-(4) で取外した吸気温センサのハーネスを切り、センサハーネスの配線及びオスギボシ, メスギボシで延長してください。
- ・センサハーネス (P61×1)

アドバイス

- ・配線は適切な長さに切断し、ギボシを確実にカシメてください。
- ・ギボシにはスリーブを被せ、確実に絶縁してください。

- (4) 吸気温センサを2-5. (1) でサクションパイプに取付けたグローメットに差込み固定してください。(図2-8-2)



- (5) 耐水ホースφ8を適切な長さに切断し、ターボチャージャーAssyへ水冷配管を取付けてください。その際スロットルボディから水冷配管を取外し、ターボチャージャーAssyへ配管した後、もとの接続パイプへ配管をしてください。さらにホースのターボチャージャーに近い部分には、遮熱テープを巻いてください。

(図2-8-3, 図2-8-4, 図2-8-5)

- ・耐水ホースφ8 (P38×1)
- ・ホースクランプφ8 (P28×4)
- ・遮熱テープ (P22)

⚠ 注意

- 水冷配管は整備書に従い、スロットル後の配管に取付けてください。水冷配管を、スロットル後以外に取付けた場合、エンジン破損の恐れがあります。
- 耐水ホースを固定する場合、タイラップ等で強く縛りすぎると水の流れが悪くなり、ターボチャージャーが破損する場合がありますのでご注意ください。

- (6) 2-5. (8) で取外したスーパーパワーフローリローデッドを取付けてください。この際ボディ及びハーネスと近くなる部分にスポンジシートを貼付けてください。
- ・スポンジシート (P44)

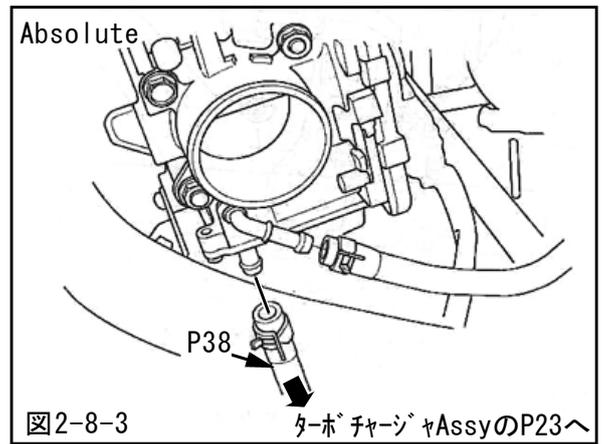


図2-8-3

ターボチャージャーAssyのP23へ

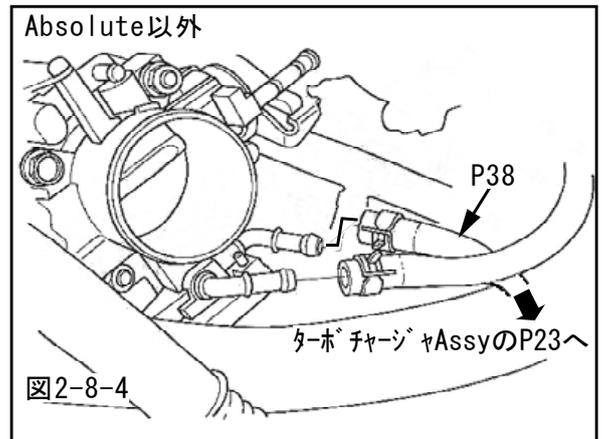


図2-8-4

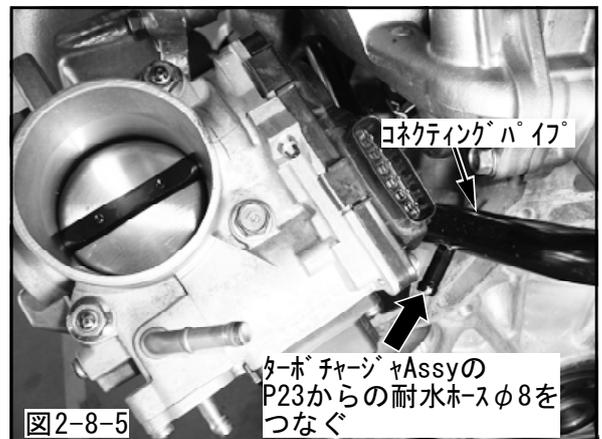
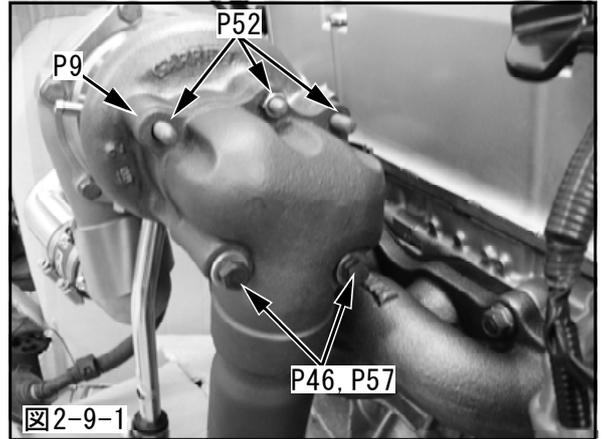


図2-8-5

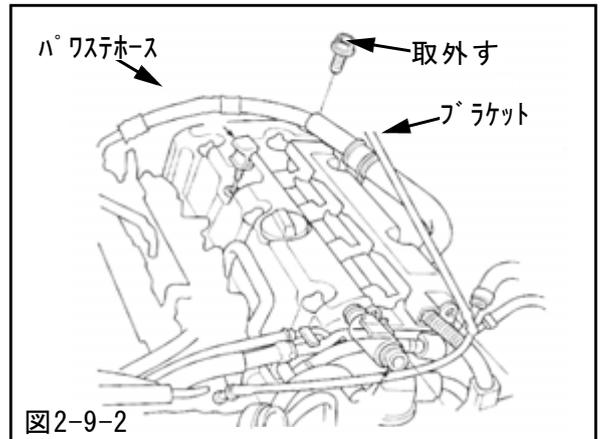
ターボチャージャーAssyのP23からの耐水ホースφ8をつなぐ

2-9. エクステンションの取付け

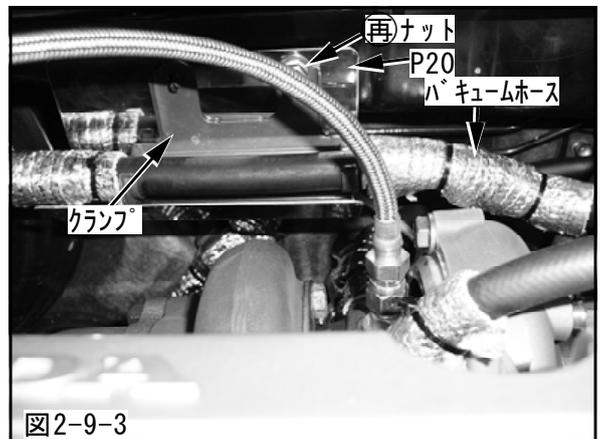
- (1) エクステンションをターボチャージャAssyに取付けてください。(図2-9-1)
 - ・エクステンション (P3×1)
 - ・エクステンションガスケット (P9×1)
 - ・セルフロックナットM8 (P52×3)
 - ・ガスナイトボルトM8 L=65 (P46×2)
 - ・プレーンワッシャM8用 (P57×2)
- (2) エクステンションと触媒をつないでください。
 - ・ガスケット触媒 (P60×1)
 - ・ナット (純正)
- (3) エクステンションに純正LAFセンサを取付けてください。



- (4) パワステホースがエクステンションに近い場合、ヘッドカバーに取付けているブラケットのボルトを外し、車体側ブレーキパイプにタイラップ(中)で固定してください。(図2-9-2)
 - ・タイラップ(中) (P30)



- (5) 1-9で取外したクランプをヒートインシュレータと共締めしてください。(図2-9-3)
 - ・ヒートインシュレータ (P20×1)
 - ・ナット (純正)



2-10. ハイオクシールの貼付け

- (1) ハイオクシールをフィラキャップまたはその周辺に貼付けてください。
 - ・ハイオクシール (P51×1)

3. ノーマルパーツ取付け

(1) エンジンオイルを入れてください。

アドバイス

- ・ HKS製スーパーターボレーシングオイルをご使用ください。
- ・ オイルは、レベルゲージの半分以下になるようにしてください。

(2) スパークプラグを別途用意したHKSスーパーファイヤーレーシングプラグに取替えてください。

注意

- ノーマルプラグからHKSスーパーファイヤーレーシングプラグに取替えてください。
取替えずにノーマルプラグを使用した場合には、エンジンを破損する恐れがあります。

(3) レゾネータ及びレゾネータカバーを取付けてください。

(4) バッテリーのマイナス端子を取付けてください。

(5) 冷却水の量を点検し、不足していたら補充をしてください。

※取付け作業終了後、必ず取扱説明書の「取付け後の確認」に従って確認作業を行なってください。

注意

- 取付け終了後、ブースト圧が 0.35kgf/cm^2 以下であることをメータなどで確認してください。
 0.35kgf/cm^2 以上のブースト圧で使用するとエンジンを破損する恐れがあります。
- 必ずハイオクガソリンを使用してください。レギュラーガソリンを使用した場合には、エンジン破損の恐れがあります。

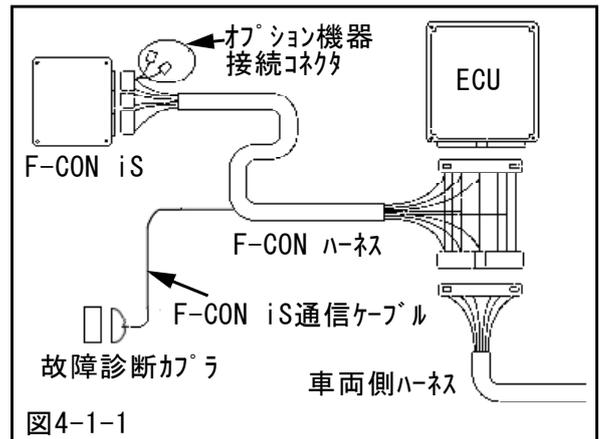
4. F-CON ハーネス取付け

F-CON ハーネス・F-CON iSの取付けに際しては、付属の取扱説明書 (E89610-K00010-00, E82111-H32012-00) に準じて作業を行なってください。

作業を始める前に、バッテリーのマイナス端子を取外してください。必ず整備要領書及び取扱説明書に準じて作業を行なってください。

※4. (4)はAT車のみの作業となります。

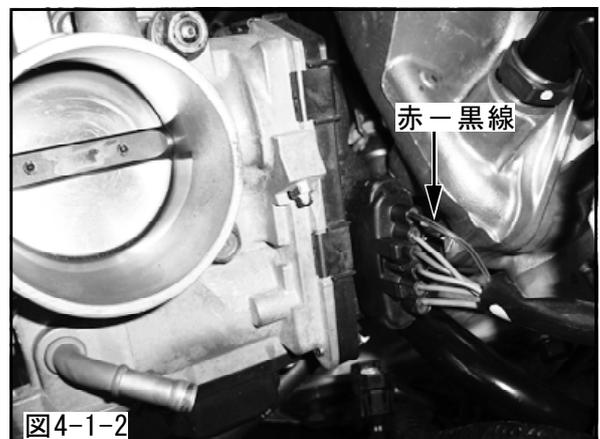
- (1) 車両側ハーネスをECUから取外してください。
- (2) F-CON ハーネスをECU及び車両ハーネスに取付けてください。
- (3) F-CON iSとF-CON ハーネスを取付けてください。
(図4-1-1)



(4) スロットル信号線 (F-CONハーネスの青線) を次のように接続してください。

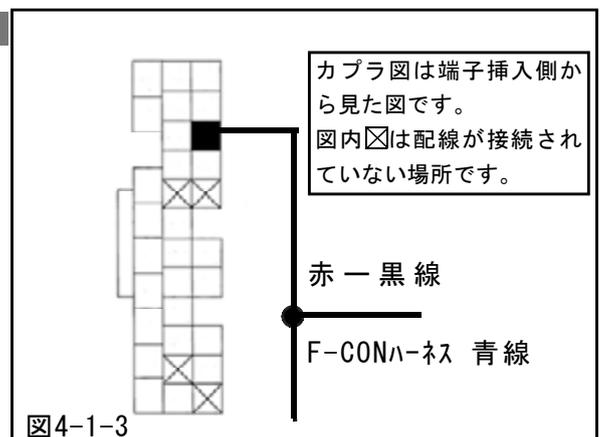
●Absoluteの場合

- エンジンルーム内スロットル横のカプラの赤-黒線にF-CONハーネスの青線を接続してください。その際、図4-1-4のバルクヘッドのグロメットを通してエンジンルームへ引込んでください。(図4-1-2)



●Absolute以外の場合 (CVT車は作業の必要はありません)

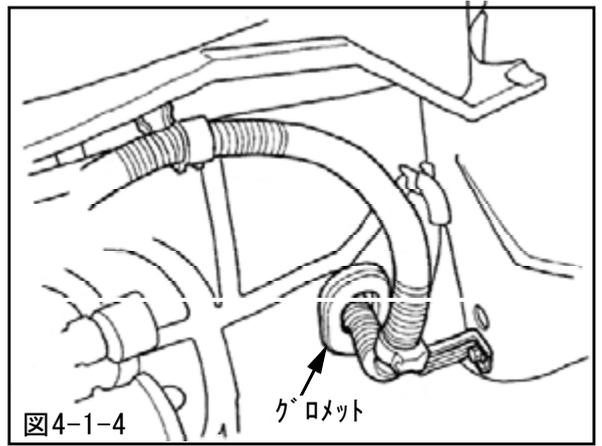
- 純正ECUの31ピンカプラのカプラの赤-黒線にF-CONハーネスの青線を適切な長さに切断して接続してください。(図4-1-3)



- (5) 常時電源線 (F-CON ハーネスの赤線) をバルクヘッドのグロメットを通してエンジンルームに引込みバッテリーのプラス端子につなげてください。(図4-1-4)

注意

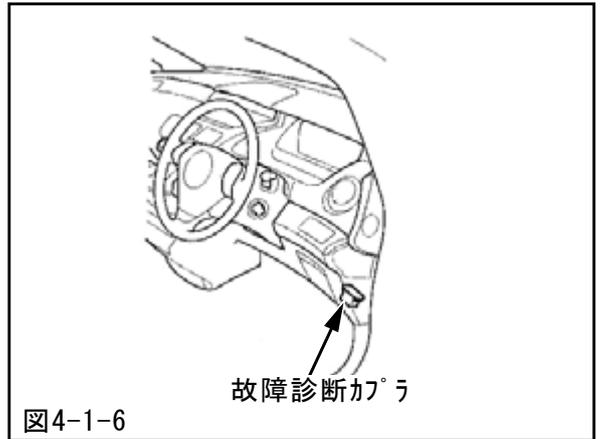
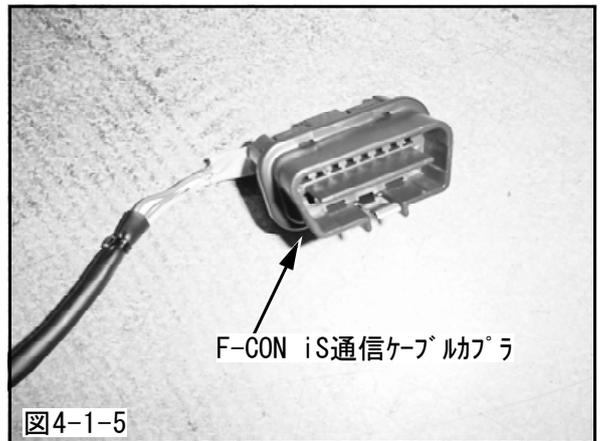
- 常時電源線 (F-CON ハーネスの赤線) をバッテリーのプラス端子に接続しなかった場合には、F-CON iS の内部データが更新されず、最悪の場合エンジン破損の恐れがあります。



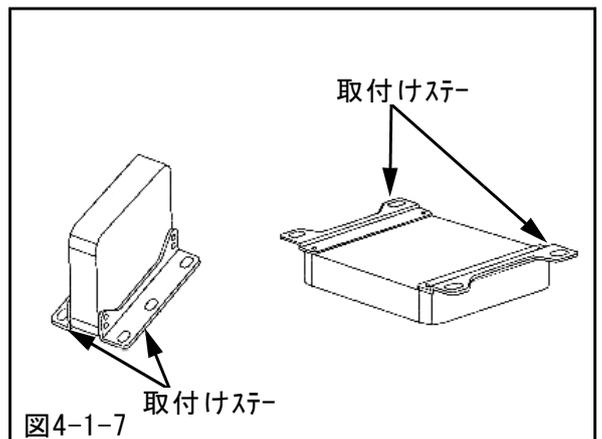
- (6) F-CON iS 通信ケーブルのカプラ (図4-1-5) を車両の故障診断カプラへ取付けてください。(図4-1-5, 図4-1-6)

アドバイス

- ・ 故障診断カプラは運転席側右下にあります。



- (6) 取付けステーで本体を固定してください。(図4-1-7)



(7) F-CON iSの映像出力機能を使用する場合には、映像出力端子からモニターへ接続することで、エンジン回転数、水温、点火時期などを表示することができます。また、画面切替スイッチを接続することで、表示項目を変更することもできます。(図4-1-8)

※その他、各スイッチの操作に関してはF-CON iSの取扱説明書をご覧ください。

(8) バッテリのマイナス端子を取付けてください。

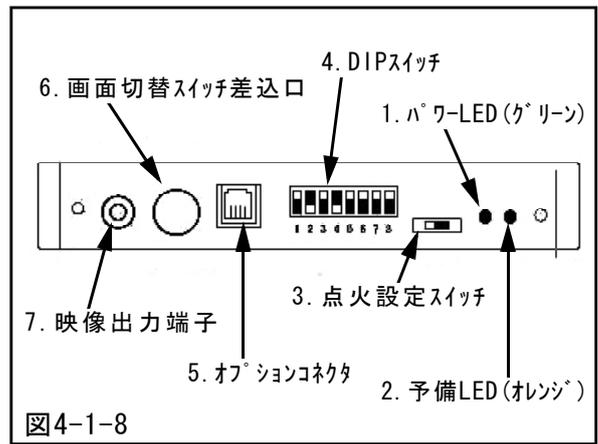


図4-1-8

(9) 取扱説明書の「取付け後の確認」に従って確認作業を行なった後、ブースト圧が34kPa (0.35kgf/cm²)以下であることをメータなどで確認をしてください。ブースト圧が低すぎる場合は、ターボチャージャーAssyのアクチュエータのターンバックルを以下の手順で締込んで調整してください。(図4-1-9)

アドバイス

・AT Dレンジでのシフトアップ時に瞬間的に45kPa (0.45kgf/cm²)程までブースト圧が上昇しますが、異常ではありません。

1. Eリングを取外す
(無くさないように注意してください。)
2. ロックナットを緩める
3. ターンバックルを締込む
4. ロックナットを締めて固定する
5. Eリングを取付ける

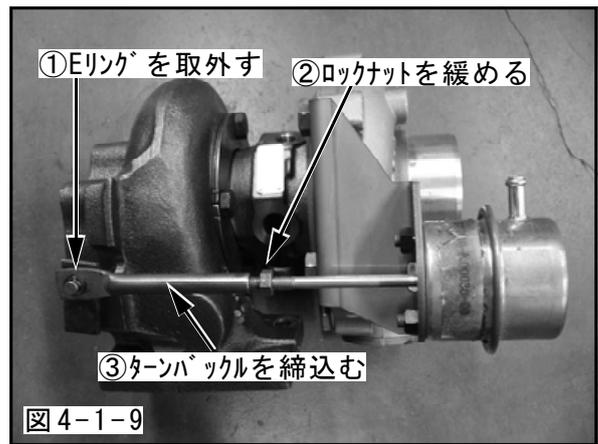


図4-1-9

アドバイス

・HKS EVCを使用することにより、ブースト圧の調整が室内で容易に行なうことができます。

注意

- キット取付け後、ブースト圧をかけずに1~2時間の走行を行ない、ECUの学習を必ず行なってください。ECUの学習を行わずに使用すると最悪の場合エンジンを破損する恐れがあります。
- ターンバックルは締込み過ぎないでください。ブースト圧の制御ができなくなり、エンジンを破損する恐れがあります。

本製品に関するお問い合わせは、お買上の販売店までお願いいたします。



株式会社 エッチ・ケー・エス

〒418-0192 静岡県富士宮市北山7181

<http://www.hks-power.co.jp/>